

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	療養支援看護学特論
担当者	高島尚美、矢田眞美子
授業の到達目標及びテーマ	療養支援を必要とする、生命危機状態にある人々あるいはがんその他の慢性疾患を抱えて療養生活をおくる主として成人期にある人々や家族の身体的かつ心理社会的な諸問題への理解を深め、病気を持ちながら生きる人々を支援するための基盤となる理論や概念を理解する。また、それらへの理解に基づき療養支援看護の実践および研究への適応について検討する。
授業の概要	療養支援を必要とする多様な疾患に伴う問題に直面している患者・家族を理解し、罹患早期からEnd of Lifeにわたる身体的かつ心理社会的、スピリチュアルな問題にアプローチするための概念および理論を学習し、苦痛や困難を緩和する援助について検討する。患者理解のための文献検討を通じて、療養支援を必要とする人々への認識を深め、看護援助方法を検討する。
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回	a. ストレス・コーピング理論(矢田眞美子) b. ラザルスのストレス・コーピング理論について理解できる。
第2回	a. ストレス・コーピング理論についての文献検討(矢田眞美子) b. ラザルスのストレス・コーピング理論を用いた文献を検討できる。
第3回	a. ストレス・コーピング理論を用いた事例検討(矢田眞美子) b. 実際に体験した事例をストレス・コーピング理論に基づいて分析し、理論の活用方法について考察する。
第4回	a. 各種危機理論についての文献検討、危機理論の理論的基盤とその特徴(高島尚美) b. 各種危機理論についての文献検討、危機理論の理論的基盤とその特徴を検討する。
第5回	a. ショック性危機モデル(高島尚美) b. フィンクの危機モデルを理解できる。
第6回	a. 消耗性危機モデル(高島尚美) b. アギャララとメズィックの問題解決モデルを理解できる。
第7回	a. 危機モデルを用いた事例検討(高島尚美) b. 実際に体験した事例を危機モデルに基づいて分析し、理論の活用方法について考察する。
第8回	a. 病気を持ちながら生きる人々の支援の基盤となる理論や概念の適用(矢田眞美子) b. 病気を持ちながら生きる人々の支援の基盤となる理論や概念の適用や意義、留意点について考察する。
教科書	指定なし
参考書	参考文献は授業中に適宜紹介する。
準備学習	事前に紹介する文献を読んで授業に参加してください。
成績評価方法・基準	1. 授業への参加度20% 2. プレゼンテーション40% 3. 最終レポート40%

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	クリティカル看護学特講 I
担当者	高島尚美、木下里美
授業の到達目標及びテーマ	クリティカルな状況下における人間の反応を総合的に理解する。科学的アプローチの基盤となる理論の原理や実践への活用について探求する。
授業の概要	先端的医療や侵襲的治療を受ける患者とその家族の経験を理解し必要な支援を導くための、最新知見や諸理論を探究する。さらに、専門的援助方法の文献検討を通じて、健康危機状況における人間の内的世界や人間存在価値や意味についても認識を深め、看護援助方法を検討することができる。授業方法は、文献購読、プレゼンテーション、ディスカッションですすめる。
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回	a. ガイダンス:クリティカル看護概論(高島尚美) b. 本科目における目的や到達目標および学習方法が理解できる。
第2回	a. クリティカルな状態にある患者とは、クリティカルケアとは、自分の臨床経験からの課題(高島尚美) b. クリティカルな状態にある患者とは、クリティカルケアが理解でき、自分の臨床経験からの課題を意識化することができる。
第3回	a. クリティカル期にある患者の体験の理解と必要な看護援助の探究 その1(高島尚美・木下里美) b. 文献や自身の経験からクリティカル期にある人の病いの体験を理解し必要な看護援助を検討することができる。
第4回	a. クリティカル期にある患者の体験の理解と必要な看護援助の探究 その2(高島尚美・木下里美) b. 文献や自身の経験からクリティカル期にある人の病いの体験を理解し必要な看護援助を検討することができる。
第5回	a. 集中治療室に入室しているがん患者の特徴とEnd of Life Care その1(木下里美) b. 集中治療室に入室しているがん患者の特徴とEnd of Life Careについて理解する。
第6回	a. 集中治療室に入室しているがん患者の特徴とEnd of Life Care その2(木下里美) b. 集中治療室に入室している患者の特徴とEnd of Life Careについて理解する。
第7回	a. クリティカル期にある患者の家族の体験の理解と必要な看護援助の探究 その1(高島尚美・木下里美) b. クリティカル期にある患者の家族の体験を理解し必要な看護援助を検討することができる。
第8回	a. クリティカル期にある患者の家族の体験の理解と必要な看護援助の探究 その2(高島尚美・木下里美) b. クリティカル期にある患者の家族の体験を理解し必要な看護援助を検討することができる。
第9回	a. クリティカル看護分野の対象理解と看護援助のための概念を学ぶ:ベナーの臨床知と看護実践 その1(高島尚美・木下里美) b. クリティカル看護分野の対象理解と看護援助のための概念としてベナーの臨床知を理解する。
第10回	a. クリティカル看護分野の対象理解と看護援助のための概念を学ぶ:ベナーの臨床知と看護実践 その2(高島尚美・木下里美) b. クリティカル看護分野の対象理解と看護援助のための概念としてベナーの臨床知の看護実践への適用を検討する。
第11回	a. クリティカル看護分野の対象理解と看護援助のための概念を学ぶ:悲嘆 その1(高島尚美) b. クリティカル看護分野の対象理解と看護援助のための概念として悲嘆理論を理解する。
第12回	a. クリティカル看護分野の対象理解と看護援助のための概念を学ぶ:悲嘆 その2(高島尚美) b. クリティカル看護分野の対象理解と看護援助のための概念として悲嘆理論を理解し看護実践への適用を検討する。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第13回	a.	クリティカル看護分野の対象理解と看護援助のための概念を学ぶ:ケアリング その1(高島尚美・木下里美)
	b.	クリティカル看護分野の対象理解と看護援助のための概念としてケアリングを理解する。
第14回	a.	クリティカル看護分野の対象理解と看護援助のための概念を学ぶ:ケアリング その2(高島尚美・木下里美)
	b.	クリティカル看護分野の対象理解と看護援助のための概念としてケアリングを理解し看護実践への適用を検討する。
第15回	a.	クリティカル看護分野の対象理解と看護援助のための概念や中範囲理論、理論の活用の意義(高島尚美・木下里美)
	b.	クリティカル看護分野の対象理解と看護援助のための概念や中範囲理論、理論の活用の意義を考察する。

教科書	指定なし
参考書	参考文献は授業中に適宜紹介する。
準備学習	事前に紹介する文献を読んで授業に参加してください。
成績評価方法・基準	1. 授業への参加度20% 2. プレゼンテーション40% 3. 最終レポート40%

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	クリティカル看護学特講Ⅱ
担当者	高島尚美、木下里美、關野長昭、挾間しのぶ、志村知子
授業の到達目標及びテーマ	クリティカル看護・集中治療を必要とする人のフィジカルアセスメントと臨床判断能力を高めることができる。
授業の概要	クリティカルケア看護・集中治療を必要とする患者の生体侵襲による生理学的変化を踏まえた、生活行動、機能回復の状況を把握する観察枠組みを理解し、高度専門職として病態生理に基づいた臨床推論やフィジカルアセスメントの技法を、講義、シミュレーション学習及びプレゼンテーションを通して修得する。さらに、最新のエビデンスに基づいて客観的に開発されている、臨床判断のためのガイドラインも活用して臨床実践能力を高める。
授業計画	a. 内容の概要: 授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標: 授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回	a. ガイダンス: クリティカル看護・集中治療を必要とする人のフィジカルアセスメントや観察枠組みとは(高島尚美) b. 本科目における目的や到達目標および学習方法が理解できる。
第2回	a. EBNに基づいた看護介入と臨床推論とは(高島尚美) b. EBNに基づいた看護介入と臨床推論の重要性と方法論を理解できる。
第3回	a. クリティカル看護における全人的理解に基づいた介入のためのアセスメント枠組(高島尚美・木下里美) b. クリティカル看護における全人的理解に基づいた介入のためのアセスメント枠組を考察できる。
第4回	a. クリティカルな状況にある患者のフィジカルアセスメントと治療: 呼吸・循環(關野長昭) b. クリティカルな状況にある患者の呼吸・循環機能異常に関する病態生理、主な治療を理解する。
第5回	a. クリティカルな状況にある患者のフィジカルアセスメントと治療: 代謝(關野長昭) b. クリティカルな状況にある患者の代謝機能異常に関する病態生理、主な治療を理解する。
第6回	a. クリティカルな状況にある患者のフィジカルアセスメントと治療: 水分・電解質(關野長昭) b. クリティカルな状況にある患者の水・電解質異常に関する病態生理、主な治療を理解する。
第7回	a. クリティカルな状況にある患者のフィジカルアセスメントと治療: 脳神経系(關野長昭) b. クリティカルな状況にある患者の脳神経系異常に関する病態生理、主な治療を理解する。
第8回	a. クリティカルな状況にある患者のフィジカルアセスメントと介入: 皮膚・創傷(志村知子) b. クリティカルな状況にある患者の皮膚・創傷のフィジカルアセスメントと介入について検討できる。
第9回	a. クリティカルな状況にある患者のフィジカルアセスメントと介入: 栄養管理(志村知子) b. クリティカルな状況にある患者の栄養状態のフィジカルアセスメントと介入について検討できる。
第10回	a. クリティカルな状況にある患者の生理学的変化のアセスメントと介入 その1(高島尚美・木下里美) b. クリティカルな状況にある患者の生理学的変化のアセスメントと介入について検討できる。
第11回	a. クリティカルな状況にある患者の生理学的変化のアセスメントと介入 その2(高島尚美・木下里美) b. クリティカルな状況にある患者の生理学的変化のアセスメントと介入について検討できる。
第12回	a. 急変対応に必要なフィジカルアセスメント技術と臨床判断能力 その1(挾間しのぶ) b. 技術/事例演習: 急変対応に必要なフィジカルアセスメントに基づいた判断や対応についてシミュレーションを通して習得する。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第13回	a.	急変対応に必要なフィジカルアセスメント技術と臨床判断能力 その2(挟間しのぶ)
	b.	技術/事例演習:急変対応に必要なフィジカルアセスメントに基づいた判断や対応についてシミュレーションを通して習得する。
第14回	a.	クリティカルな状況にある患者の生活行動(心理社会面を含む)のアセスメントと介入 その1(高島尚美・木下里美)
	b.	クリティカルな状況にある患者の生活行動(心理社会面を含む)のアセスメントと介入を検討できる。
第15回	a.	クリティカルな状況にある患者の生活行動(心理社会面を含む)のアセスメントと介入 その2(高島尚美・木下里美)
	b.	クリティカルな状況にある患者の生活行動(心理社会面を含む)のアセスメントと介入を検討できる。

教科書	指定なし
参考書	参考文献は授業中に適宜紹介する。
準備学習	事前に紹介する文献を読んで授業に参加してください。
成績評価方法・基準	1. 授業への参加度20% 2. プレゼンテーション40% 3. 最終レポート40%

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	クリティカル看護学特講Ⅲ
担当者	高島尚美、木下里美、藤野智子、児玉久仁子
授業の到達目標及びテーマ	クリティカルケアが必要な状況にある患者・家族の意思決定・自律性に関わる命題と対応方法について探求する。
授業の概要	インフォームド・コンセントの概念や患者権利擁護(アドボカシー)、倫理的課題について看護者の立場として必要な対応について、具体的な事例や専門看護師の活動を通して探求する。特に、生命危機の状況における治療方針に関する患者家族の代理意思決定プロセスや関与する看護の役割に関しても認識を深める。授業方法は、文献購読、プレゼンテーション、ディスカッションですすめる。
授業計画	a. 内容の概要: 授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標: 授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回	a. ガイダンス: 倫理的課題と調整・家族支援(高島尚美) b. 本科目における目的や到達目標および学び方が理解できる。
第2回	a. 現代の先端医療における患者の権利に関する課題と患者と家族の倫理的意思決定を巡る課題(児玉久仁子) b. 現代の先端医療における患者の権利に関する課題と患者と家族の倫理的意思決定を巡る課題を検討できる。
第3回	a. 規範倫理の原則とケアリング倫理および看護実践上の課題(高島尚美) b. 規範倫理の原則とケアリング倫理および看護実践上の課題を理解し考察できる。
第4回	a. クリティカルな状況にある患者家族を理解するための家族理論とは(児玉久仁子) b. クリティカルな状況にある患者家族を理解するための家族理論概論を理解する。
第5回	a. クリティカルな状況にある患者家族を理解し適切に介入するための家族理論(児玉久仁子) b. クリティカルな状況にある患者家族を理解し適切に介入するための家族理論を理解する。
第6回	a. クリティカルな状況にある患者家族を理解し介入するための家族理論: 家族ストレス対処理論(児玉久仁子) b. クリティカルな状況にある患者家族を理解し介入するための家族理論: 家族ストレス対処理論を理解する。
第7回	a. クリティカルな状況にある患者家族を理解し介入するための家族理論: 家族システム理論(児玉久仁子) b. クリティカルな状況にある患者家族を理解し介入するための家族理論: 家族システム理論を理解する。
第8回	a. クリティカルな状況にある患者家族を理解し介入するための家族理論を用いた事例検討 その1(高島尚美・木下里美) b. クリティカルな状況にある患者家族を理解し介入するための家族理論を用いた事例検討を通して適切な介入を検討する。
第9回	a. クリティカルな状況にある患者家族を理解し介入するための家族理論を用いた事例検討 その2(高島尚美・木下里美) b. クリティカルな状況にある患者家族を理解し介入するための家族理論を用いた事例検討を通して適切な介入を検討する。
第10回	a. 臨床における倫理的課題と看護師としての対応方法(藤野智子) b. 臨床における倫理的課題と看護師としての対応方法を理解する。
第11回	a. 臨床における倫理的課題と看護師としての対応方法の実際(藤野智子) b. 具体的な事例検討から臨床における倫理的課題と看護師としての対応方法の実際を検討する。
第12回	a. クリティカル看護を行なう看護師のジレンマ(藤野智子) b. クリティカル看護を行なう看護師のジレンマを理解する。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第13回	a.	クリティカルな状況にある患者家族の代理意思決定支援(藤野智子)
	b.	クリティカルな状況にある患者家族の代理意思決定支援を理解する。
第14回	a.	クリティカルな状況にある患者と家族の倫理的課題とその対応方法 その1(高島尚美・木下里美)
	b.	事例を用いてクリティカルな状況にある患者と家族の倫理的課題とその対応方法を検討できる。
第15回	a.	クリティカルな状況にある患者と家族の倫理的課題とその対応方法 その2(高島尚美・木下里美)
	b.	事例を用いてクリティカルな状況にある患者と家族の倫理的課題とその対応方法を検討できる。

教科書	指定なし
参考書	参考文献は授業中に適宜紹介する。
準備学習	事前に紹介する文献を読んで授業に参加してください。
成績評価方法・基準	1. 授業への参加度20% 2. プレゼンテーション40% 3. 最終レポート40%

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	クリティカル看護学演習
担当者	高島尚美、木下里美、卯野木健
授業の到達目標及びテーマ	<p>1. クリティカル看護領域における看護実践から導き出される研究課題を明確にするために、文献クリティークを行い、研究的に課題解決をする方法論を習得する。</p> <p>2. クリティカル看護領域における最新の知見や先駆的な取り組みを知ることで、研究の意義を理解する。</p>
授業の概要	<p>クリティカルケア領域における看護実践から導き出される研究課題を明確にするために、自らの実践を振り返り研究課題を設定し文献クリティークを行い、研究的に課題解決をする方法論を習得する。文献クリティークを行うための質的・量的・混合研究法の基本を理解する。さらに、課題を解決するための多職種連携やICUの管理のあり方、継続ケアにおける看護支援の在り方についても検討する。</p>
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回	<p>a. クリティカルケア領域における看護に関する文献検討 その1(高島尚美)</p> <p>b. 自分の研究課題を明確にするために文献を収集しクリティークすることができる。</p>
第2回	<p>a. クリティカルケア領域における看護に関する文献検討 その2(高島尚美)</p> <p>b. 自分の研究課題を明確にするために文献を収集しクリティークすることができる。</p>
第3回	<p>a. クリティカルケア領域における看護に関する文献検討 その3(高島尚美)</p> <p>b. 自分の研究課題を明確にするために文献を収集しクリティークすることができる。</p>
第4回	<p>a. クリティカルケア領域における看護研究の方法論:質的研究 その1(高島尚美・木下里美)</p> <p>b. クリティカルケア領域における看護研究の方法論としての質的研究(質的記述的)を理解できる。</p>
第5回	<p>a. クリティカルケア領域における看護研究の方法論:質的研究 その2(高島尚美・木下里美)</p> <p>b. クリティカルケア領域における看護研究の方法論としての質的研究(GTA)を理解できる。</p>
第6回	<p>a. クリティカルケア領域における看護研究の方法論:質的研究 その3(高島尚美・木下里美)</p> <p>b. クリティカルケア領域における看護研究の方法論としての質的研究(現象学的アプローチ)を理解できる。</p>
第7回	<p>a. クリティカルケア領域における看護研究の方法論:量的研究 その1(高島尚美・木下里美)</p> <p>b. クリティカルケア領域における看護研究の方法論としての量的研究(関連探索型)を理解できる。</p>
第8回	<p>a. クリティカルケア領域における看護研究の方法論:量的研究 その2(高島尚美・木下里美)</p> <p>b. クリティカルケア領域における看護研究の方法論としての量的研究(仮説検証型)を理解できる。</p>
第9回	<p>a. クリティカルケア領域における看護研究の方法論:量的研究 その3(高島尚美・木下里美)</p> <p>b. クリティカルケア領域における看護研究の方法論としての量的研究(因果仮説検証型)を理解できる。</p>
第10回	<p>a. クリティカルケア領域における看護研究の方法論:混合研究法(高島尚美・木下里美)</p> <p>b. クリティカルケア領域における看護研究の方法論としての混合研究法を理解できる。</p>
第11回	<p>a. ICUの管理 その1(卯野木健)</p> <p>b. ICUにおけるクリニカルインジケータを用いたQuality Managementについて理解できる。</p>



関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第12回	a.	ICUの管理 その2(卯野木健)
	b.	自施設のフィールドアセスメントを行ないQuality Managementについて検討できる。
第13回	a.	多職種連携と継続ケア その1(高島尚美・木下里美)
	b.	クリティカルケア領域で必要な多職種連携と継続ケアについて検討できる。
第14回	a.	多職種連携と継続ケア その2(高島尚美・木下里美)
	b.	クリティカルケア領域で必要な多職種連携と継続ケアについて検討できる。
第15回	a.	文献検討からの研究課題・研究デザインの検討(高島尚美)
	b.	自己の実践と特講や演習での学びから研究テーマ設定のための文献検討から研究デザインを検討する。

教科書	指定なし
参考書	参考文献は授業中に適宜紹介する。
準備学習	事前に紹介する文献を読んで授業に参加してください。
成績評価方法・基準	1. 授業への参加度20% 2. プレゼンテーション40% 3. 最終レポート40%

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	クリティカル看護学特別演習
担当者	高島尚美、木下里美
授業の到達目標及びテーマ	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. クリティカルケアを必要とする患者を専門的知識、理論を用いて総合的に アセスメントし、課題解決に向けた看護を展開する。</li> <li>2. 家族看護に関する理論や知識を用いて、倫理的課題を含めた家族援助のあり方を学ぶ。</li> <li>3. チーム医療を展開するために必要な調整能力、コーチング、リーダーシップ能力開発を試みる。</li> </ol>
授業の概要	<p>クリティカルケアを必要とする患者を専門的知識、理論を用いて総合的に アセスメントし、課題解決に向けた看護をフィールドワークにより展開する。特に、患者の最新のエビデンスに基づいたフィジカルアセスメント能力と介入能力の習熟をはかる。また家族看護に関する理論や知識を用いて、倫理的課題を含めた家族援助のあり方を学ぶ。さらにフィールドアセスメントに基づいた看護チームやスタッフの問題解決にリーダーシップがとれるような調整能力、教育・指導能力を開発するためにフィールドワークを行なう。</p>
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回～	a. エキスパートとしてのクリティカル看護の実際
第5回	b. 専門看護師のシャドウイングを通して、クリティカル看護を必要とする人々の理解や必要な介入が理解できる。
第6回～	a. 自分自身のクリティカル看護実践のリフレクションからの考察
第10回	b. 自分自身のクリティカル看護実践のリフレクションを行ない、体験を意味づけ概念化してみる。
第11回～	a. 医療チームに参加してみることでクリティカル看護の考察
第15回	b. 医師やPT、CEといった多職種への臨床活動に参加してみることでクリティカル看護を考察する。
第16回～	a. 自分の職場以外の施設におけるクリティカル看護の体験と意味づけ
第20回	b. 他施設においてクリティカル看護を必要とする患者と家族への看護実践を行ないリフレクションを行ない評価する。
第21回～	a. クリティカルケア部門におけるクリティカル看護に必要な管理、調整、教育機能
第25回	b. クリティカル看護実践を行なうためのフィールドアセスメントを含めた管理、調整、教育機能を実践から考察する。
第26回～	a. クリティカル看護を必要とする患者と家族の特徴や必要な看護師のコンピテンシー
第30回	b. クリティカル看護を必要とする患者と家族の特徴や必要な看護師のコンピテンシーを考察する。
教科書	指定なし
参考書	参考文献は授業中に適宜紹介する。
準備学習	事前に紹介する文献を読んで授業に参加してください。
成績評価方法・基準	1. 実践における取り組み 50% 2. プレゼンテーション20% 3. 最終レポート30%

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	慢性看護学特講 I	
担当者	矢田眞美子、若林律子	
授業の到達目標及びテーマ	<p>1. がんその他の慢性病を抱えて療養生活を送る、主として成人期にある人々や家族の身体的・心理社会的な諸問題を理解する。</p> <p>2. 病気を持ちながら生きる人々を支援するための基盤となる理論や概念を理解する。</p> <p>3. 上記1と2の理解に基づき慢性看護の実践および研究への適用について検討する。</p>	
授業の概要	<p>がんその他の慢性病を抱えて療養生活を送る、主として成人期にある人々や家族の身体的かつ心理社会的な諸問題への理解を深め、病気を持ちながら生きる人々を支援するための基盤となる理論や概念を理解する。また、それらへの理解に基づき実践および研究への適用について検討する。授業方法は、文献講読、プレゼンテーション、ディスカッションですすめる。</p>	
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安	
第1回	a.	ガイダンス:慢性看護学特講 I の概要、到達目標、学習方法(矢田眞美子)
	b.	本科目の概要と到達目標および学習方法を理解できる。
第2回	a.	慢性看護学およびその対象とは、自分の臨床経験からの課題(矢田眞美子)
	b.	慢性看護学およびその対象を理解し、自分の臨床経験からの課題を意識化できる。
第3回	a.	がんその他の慢性病を抱えて療養生活を送る人および家族の身体的・心理社会的な諸問題①(矢田眞美子)
	b.	がんその他の慢性病を抱えて療養生活を送る人の身体的な諸問題を理解できる。
第4回	a.	がんその他の慢性病を抱えて療養生活を送る人および家族の身体的・心理社会的な諸問題②(矢田眞美子)
	b.	がんその他の慢性病を抱えて療養生活を送る人および家族の心理社会的な諸問題を理解できる。
第5回	a.	主として成人期にある人々や家族の生涯発達①(矢田眞美子)
	b.	エリクソンの発達理論及びハヴィガーストの発達理論を理解できる。
第6回	a.	主として成人期にある人々や家族の生涯発達②(矢田眞美子)
	b.	レヴィンソンの発達理論を理解できる。
第7回	a.	成人期の人生移行(人生危機)と看護(矢田眞美子)
	b.	成人期の人生移行(人生危機)と看護の課題を理解できる。
第8回	a.	主として成人期にある人々の理解(アンドラゴジー①)(矢田眞美子)
	b.	成人学習者の特性を理解できる。
第9回	a.	主として成人期にある人々の理解(アンドラゴジー②)(矢田眞美子)
	b.	成人学習者の特性にあわせた教育的看護実践を理解できる。
第10回	a.	主として成人期にある人々の理解(自己概念)(矢田眞美子)
	b.	自己概念とBody imageについて理解し、看護について理解できる。
第11回	a.	慢性疾患患者の看護に関連した理論・概念(病みの軌跡、慢性疾患ケアモデル)①(若林律子)
	b.	病みの軌跡、慢性疾患ケアモデルを理解できる。
第12回	a.	慢性疾患患者の看護に関連した理論・概念(自己効力感、健康信念モデル)②(若林律子)
	b.	自己効力感、健康信念モデルを理解できる。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第13回	a.	慢性疾患患者の看護に関連した理論・概念(アクションプラン、症状マネジメント)③(若林律子)
	b.	アクションプラン、症状マネジメントに関連した理論・概念を理解できる。
第14回	a.	慢性疾患患者の看護に関連した理論・概念(エンパワメント、患者教育)④(若林律子)
	b.	エンパワメント、患者教育に関連した理論・概念を理解できる。
第15回	a.	慢性看護学領域の対象理解と看護援助および研究のための概念や中範囲理論、理論の適用(若林律子)
	b.	慢性看護学領域の対象理解と看護援助および研究のための概念や中範囲理論、理論の適用について検討する。

教科書	指定なし
参考書	参考文献は授業中に適宜紹介する。
準備学習	事前に紹介する文献を読んで授業に参加してください。
成績評価方法・基準	1. 授業への参加度20% 2. プレゼンテーション40% 3. 最終レポート40%

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	慢性看護学特講Ⅱ	
担当者	矢田眞美子、若林律子、渡部節子	
授業の到達目標及びテーマ	<p>1. がん化学療法を受ける人々について理解を深め、治療を継続しながら生活する患者と家族への看護援助について考察する。</p> <p>2. 感染症(HIV/AIDS, 結核など)を抱える人々の療養体験について理解を深め、感染症患者と家族への看護援助について考察する。</p> <p>3. 慢性疾患をもつ人々への理論や科学的根拠に基づいたリハビリテーション、患者教育など具体的な看護援助について考察する。</p>	
授業の概要	<p>がんその他の慢性疾患に対する様々な治療および状況に伴って生じる患者・家族の不安や身体的かつ心理社会的な苦痛を、臨床的・研究的観点から明らかにする。苦痛や不安をもつ人々への科学的根拠に基づいたリハビリテーション、患者教育など具体的な看護援助について探求する。</p>	
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安	
第1回	a.	ガイダンス:慢性看護学特講Ⅱの概要、到達目標、学習方法(矢田眞美子)
	b.	本科目の概要と到達目標および学習方法が理解できる。
第2回	a.	がん化学療法の概要と患者家族への影響(矢田眞美子)
	b.	がん化学療法の概要とそれに伴う患者・家族への看護援助について理解する。
第3回	a.	がん化学療法に伴う患者・家族の不安と看護援助(矢田眞美子)
	b.	がん化学療法に伴う患者・家族の不安と看護援助について事例を用いて検討する。
第4回	a.	がん化学療法に伴う患者の身体的苦痛と看護援助(矢田眞美子)
	b.	がん化学療法に伴う患者の身体的苦痛(有害事象)と看護援助について事例を用いて検討する。
第5回	a.	がん化学療法に伴う患者・家族の心理社会的苦痛と看護援助(矢田眞美子)
	b.	がん化学療法に伴う患者・家族の心理社会的苦痛と看護援助について事例を用いて検討する。
第6回	a.	感染症患者の療養体験(渡部節子)
	b.	HIV/AIDS, 結核などの感染症患者の療養体験について理解を深めることができる。
第7回	a.	感染症患者と家族への看護援助①(渡部節子)
	b.	HIV/AIDS, 結核などの感染症患者の看護援助について理解する。
第8回	a.	感染症患者と家族への看護援助②(渡部節子)
	b.	感染症患者と家族への看護援助について事例を用いて検討する。
第9回	a.	慢性疾患患者の対象の理解(若林律子)
	b.	慢性疾患患者の事例を理論を用いて分析し、対象理解を深めることができる。
第10回	a.	慢性疾患患者への看護援助①:症状マネジメント(若林律子)
	b.	慢性疾患患者の疾患、症状の特徴を事例を用いて検討する。
第11回	a.	慢性疾患患者への看護援助②:循環器機能障害をもつ人のリハビリテーション(若林律子)
	b.	循環器機能障害をもつ患者の特徴を理解し、リハビリテーション看護の理解を深めることができる。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第12回	a.	慢性疾患患者への看護援助③:呼吸機能障害をもつ人のリハビリテーション(若林律子)
	b.	呼吸器機能障害をもつ患者の特徴を理解し、リハビリテーション看護の理解を深めることができる。
第13回	a.	慢性疾患患者の患者教育・セルフマネジメント教育 ①(若林律子)
	b.	慢性呼吸器疾患患者の患者教育・セルフマネジメント教育について理解を深めることができる。
第14回	a.	慢性疾患患者の患者教育・セルフマネジメント教育 ②(矢田眞美子)
	b.	糖尿病患者の患者教育・セルフマネジメント教育について理解を深めることができる。
第15回	a.	慢性疾患患者のアウトカム(若林律子)
	b.	慢性疾患患者の患者のアウトカム、看護のアウトカムを事例を用いて検討する。

教科書	指定なし
参考書	参考文献は授業中に適宜紹介する。
準備学習	事前に紹介する文献を読んで授業に参加してください。
成績評価方法・基準	1. 授業への参加度20% 2. プレゼンテーション40% 3. 最終レポート40%

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	慢性看護学特講Ⅲ	
担当者	矢田眞美子、若林律子、武知由佳子、桑名寿美	
授業の到達目標及びテーマ	<p>1. 外来治療を継続する慢性病患者の抱える諸問題を取り上げ、解決に向けた諸連携と看護の実際について検討する。</p> <p>2. がん患者の治療選択の意思決定支援、症状マネジメント、在宅療養調整と多職種連携の実際について理解し、がん看護の専門性と役割について探求する。</p> <p>3. 国内外における慢性疾患(がん／非がん)における緩和ケア、End of Lifeへのケアの継続、関わりについて探求する。</p> <p>4. 慢性疾患を抱える人々を支える地域包括的ケアシステムや多職種連携の実際について理解し、看護の専門性と役割を探求する。</p>	
授業の概要	<p>多様な疾患や困難を抱えながら地域で療養生活を送る患者・家族を取りまく現状、および人々を支える地域包括ケアシステムや多職種連携の実際を理解し、罹患早期から終末期にわたり継続する看護の専門性とその役割について探求する。</p>	
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安	
第1回	a.	ガイダンス:慢性看護学特講Ⅲの概要、到達目標、学習方法(矢田眞美子)
	b.	本科目の概要と到達目標および学習方法が理解できる。
第2回	a.	外来治療を継続する慢性病患者の抱える諸問題(矢田眞美子)
	b.	外来治療を継続する慢性病患者の抱える諸問題を理解できる。
第3回	a.	外来治療を継続する慢性病患者の抱える諸問題の解決に向けた連携と看護(矢田眞美子)
	b.	外来治療を継続する慢性病患者の抱える諸問題の解決に向けた連携と看護の役割を理解できる。
第4回	a.	慢性疾患(がん／非がん)における緩和ケア(若林律子)
	b.	慢性疾患(がん／非がん)における緩和ケアについて探求する。
第5回	a.	慢性疾患(がん／非がん)患者のEnd of Lifeへのケアの継続、関わり(若林律子)
	b.	慢性疾患(がん／非がん)患者のEnd of Lifeへのケアの継続、関わりについて探求する。
第6回	a.	がん患者の治療選択の意思決定支援の実際(桑名寿美)
	b.	がん患者の治療選択の意思決定支援の実際について理解する。
第7回	a.	がん患者の症状マネジメントの実際(桑名寿美)
	b.	がん患者の症状マネジメントの実際について理解する。
第8回	a.	がん患者の在宅療養調整と多職種連携の実際(桑名寿美)
	b.	がん患者の在宅療養調整と多職種連携の実際について理解する。
第9回	a.	慢性疾患を抱える人々を支える地域包括的ケアシステムや多職種連携の実際①(武知由佳子)
	b.	慢性疾患を抱える人々を支える地域包括的ケアシステムにおける医師の役割、連携について探求する。
第10回	a.	慢性疾患を抱える人々を支える地域包括的ケアシステムや多職種連携の実際②(武知由佳子)
	b.	慢性疾患を抱える人々を支える地域包括的ケアシステムにおける訪問看護師の役割、連携について探求する。
第11回	a.	慢性疾患を抱える人々を支える地域包括的ケアシステムや多職種連携の実際③(武知由佳子)
	b.	慢性疾患を抱える人々を支える地域包括的ケアシステムにおける理学療法士の役割、連携について探求する。

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

第12回	a.	慢性疾患を抱える人々を支える地域包括的ケアシステムや多職種連携の実際④(武知由佳子)
	b.	慢性疾患を抱える人々を支える地域包括的ケアシステムにおける栄養士の役割、連携について探求する。
第13回	a.	地域包括的ケアシステムおよび多職種連携における看護の専門性とその役割(武知由佳子)
	b.	慢性疾患を抱える人々を支える地域包括的ケアシステムにおける看護の専門性と役割、連携について探求する。
第14回	a.	慢性疾患を抱える人々の活動、患者会の実際(若林律子)
	b.	慢性疾患を抱える人々がお互いを支えあう活動、患者会の役割と医療者との連携について探求する。
第15回	a.	慢性疾患患者の倫理的課題(矢田眞美子)
	b.	慢性疾患患者の倫理的課題について事例を用いて検討する。

教科書	指定なし
参考書	参考文献は授業中に適宜紹介する。
準備学習	事前に紹介する文献を読んで授業に参加してください。
成績評価方法・基準	1. 授業への参加度20% 2. プレゼンテーション40% 3. 最終レポート40%



関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	慢性看護学演習
担当者	矢田眞美子、若林律子
授業の到達目標及びテーマ	慢性看護領域における文献検討のクリティークを行い、自らの研究課題および研究方法について検討する。
授業の概要	慢性看護領域における看護実践および研究課題を概観し実践・研究課題について明確化するために、自らの実践・研究課題を設定し、文献検討等を行い、実践・研究課題および方法論を理論的視点から探求する。授業方法は、文献検討、プレゼンテーション、ディスカッションですすめる。
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回	a. ガイダンス:慢性看護学演習の概要、到達目標、学習方法 b. 本演習の概要、到達目標、学習方法を理解する。
第2回～	a. 慢性看護領域における文献検討
第5回	b. 自らの実践・研究課題を明確化するために、慢性看護領域における文献を収集し、文献検討を行う。
第6回～	a. 慢性看護領域における研究方法の検討 ①
第7回	b. 収集した文献から質的研究法を用いた研究論文を取り上げクリティークする。
第8回～	a. 慢性看護領域における研究方法の検討 ②
第9回	b. 収集した文献から量的研究方法を用いた研究論文を取り上げクリティークする。
第10回～	a. 慢性看護領域における自らの研究課題の明確化
第11回	b. 文献検討を通して慢性看護領域における自らの研究課題を明確化する。
第12回～	a. 慢性看護領域における自らの研究課題と研究方法の検討
第14回	b. 文献検討を通して慢性看護領域における自らの研究課題と研究方法を検討する。
第15回	a. 慢性看護領域における自らの研究課題と研究方法の発表 b. 慢性看護領域における自らの研究課題と研究方法を発表する。
教科書	指定なし
参考書	参考文献は授業中に適宜紹介する。
準備学習	事前に紹介する文献を読んで授業に参加してください。
成績評価方法・基準	1. 授業への参加度20% 2. プレゼンテーション40% 3. 最終レポート40%

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	慢性看護学特別演習
担当者	矢田眞美子、若林律子
授業の到達目標及びテーマ	慢性看護領域における現状と課題を把握し、患者・家族のQOL向上を支える看護に寄与しうる研究課題を明確にし、研究計画書を作成する。
授業の概要	療養支援看護学特論、慢性看護学特講等で学習した内容を踏まえて自らの関心のある研究課題を取り上げ、それを明確化するためのフィールドワーク等のプロセスを経て研究計画書を作成する。
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回～ a.	慢性看護領域のフィールドワークの立案と準備
第5回 b.	慢性看護の自らの関心のある研究課題を取り上げ、それを明確化するためのフィールドワークを立案できる。
第6回～ a.	卓越した慢性看護の実際
第10回 b.	慢性看護の達人看護師のシャドウイングを通して、慢性看護を必要とする人々の理解や必要な介入が理解できる。
第11回～ a.	慢性看護実践のリフレクションと考察
第15回 b.	自分自身の慢性看護の実践を振り返り、自己の看護の体験世界をナラティブに意味づけることができる。
第16回～ a.	慢性看護実践における多職種連携の実際
第20回 b.	慢性看護実践における多職種連携の実際に参加し、患者・家族のQOLを支える慢性看護を考察する。
第21回～ a.	慢性看護実践に必要な管理、調整、教育機能
第25回 b.	慢性看護実践に必要な管理、調整、教育機能についてその実際から考察する。
第26回～ a.	研究課題の明確化と研究計画書の作成
第30回 b.	慢性看護における自らの研究課題を明確化し、研究計画書を作成する。
教科書	指定なし
参考書	参考文献は授業中に適宜紹介する。
準備学習	事前に紹介する文献を読んで授業に参加してください。
成績評価方法・基準	1. 実践における取り組み 50% 2. プレゼンテーション20% 3. 最終レポート30%

関東学院大学大学院 看護学研究科看護学専攻 授業計画(シラバス)概要版

科目名	療養支援看護学特別研究
担当者	矢田眞美子、高島尚美、木下里美、若林律子
授業の到達目標及びテーマ	<ol style="list-style-type: none"> <li>療養支援看護に関する自己の関心領域課題について、文献検討をした上で研究課題として設定することができる。</li> <li>療養支援看護に関する研究計画書を作成できる。</li> <li>療養支援看護に関する研究計画書にそってデータを収集し分析し論文化することができる。</li> <li>研究発表をすることができる。</li> </ol>
授業の概要	<p>療養支援を必要とする、主として成人期にある人々とその家族の療養生活やEnd of Lifeを支えるための質の高い看護実践に貢献することを目指し、各自の研究課題に対して適切な研究方法論を用いた看護研究を行なう。また一連の研究プロセスを通して、療養支援看護実践の場における変革に寄与する基礎的看護研究能力の獲得を目指す。</p>
授業計画	a. 内容の概要:授業回ごとの具体的授業内容 b. 到達目標:授業回ごとに目標とする理解度の目安
第1回～	a. 療養支援看護の関連文献検討に基づいた自己の研究課題の確定
第20回	b. 療養支援看護に関する自己のテーマの先行研究を包括的にレビューし、文献検討としてまとめる。
第21回～	a. 研究計画書作成
第30回	b. 療養支援看護に関する自己の研究テーマに基づき研究計画書を作成する。
第31回～	a. 研究の実施
第50回	b. 研究計画書に基づきデータ収集し分析し、結果として整理し、考察する。
第51回～	a. 修士論文作成
第70回	b. 研究成果を修士論文として記述する。
第71回～	a. 修士論文発表会
第75回	b. 研究発表会で修士論文を発表し、評価、コメントを踏まえ論文をさらに校正する。
教科書	指定なし
参考書	参考文献は授業中に適宜紹介する。
準備学習	必ず研究に関する検討のための準備をし成果物を持参して個人面談に臨む。
成績評価方法・基準	主査および副査による論文審査と口頭試問80% 修士論文発表20%